

科目名称	大学入門セミナー (E)		授業コード	10102571	
担当教員	藤山 哲朗	山之内 誠、長濱 伸貴、小浦 久子、萬田 隆、畑 友洋、荻原 廣高、三上 晴久、川北 健雄、花田 佳明			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	全学共通プログラムは遠隔(オンデマンド)授業。学科プログラムは混合(原則対面授業とするが状況によりオンデマンド併用)。
遠隔の場合の主なツール	Teams, KDU ポータル, Stream
履修制限等	20E生および編転入生限定
授業の目的と到達目標(学習成果)	<p>&lt;授業の目的&gt;</p> <p>①大学や大学生活に適応し、不安を解消する。</p> <p>②大学で必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、社会的な知識・スキルを獲得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>③フィールドサーベイの基礎がわかる</p> <p>グループワークによるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけることができる</p>
授業の概要(内容)	<p>この授業は、全学科共通プログラム(前述到達目標①②/[A])及び学科プログラム(前述到達目標③/[B])の2つから成り立っている。</p> <p>[A]高校から大学へ、「生徒」から「学生」へと円滑に移行し、また豊かな大学生活を送ることができるように支援する、講義を中心とした授業の実施。</p> <p>[B]学外の施設を訪問・見学する学科プログラム。プログラムの第一の目的は、大学での学習態度を身に付けてもらうこと、何よりも同級生や教員とお互いに知り合い、コミュニケーションを深めることにある。環境や建築のデザイン分野の仕事では、住まい手や事業者、施工業者、技術者など様々な人々と関わり合いながら作品をつくる。また、大学の授業でもグループで取り組む課題もある。このため、この共同作業をする学科プログラムを通じて人の輪を広げ、合わせて、学外の施設を訪れることで、実際の建物や環境を読み取るフィールドサーベイに関心を持つきっかけとする。</p>
授業計画	<p>1:「芸工大」講座、大学で学ぶとは①(学生生活の心得)</p> <p>2:大学で学ぶとは②(学習の技術)</p> <p>3:大学で学ぶとは③(安全、健康管理)</p> <p>4~10:学科プログラム(集中授業)</p> <p>11:大学で学ぶとは④(コミュニケーションの技術)</p> <p>12:文献の探し方</p> <p>13:知的財産権入門</p> <p>14:情報リテラシー</p> <p>15:キャリアデザイン</p> <p>&lt;学科プログラム&gt;</p> <p>少人数グループでの神戸近郊の地区、建物などの見学会を実施。ただし感染状況によっては動画視聴による空間体験プログラムに代替することもある。</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	<p>[A]:「大学生とは?」「将来の夢は…」等、現在の自分の考えをまとめておくこと</p> <p>[B]:オリエンテーションでグループ別見学会での訪問先が発表されるので、図書館やインターネット等を利用して、各自で必ず基礎知識を学習しておくこと。</p>
評価方法	<p>[A]、[B]各50%で評価する。</p> <p>[A]毎回の授業で提出するコメントシートによる評価。</p> <p>[B]グループ別見学会への参加とレポートによる評価。</p>
課題・試験に対するフィードバックの方法	[B]全体見学会最後に発表会を行い、講評をおこなう。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	[A]都度、プリントを配布。[B]見学先ごとに適宜資料を配布。
各自準備物	随時指示する。
実習費	[A]なし[B]神戸近郊のグループ別見学会については、現地集合場所までの交通費は自己負担、施設入場料等は原則大学負担。
その他	学科プログラムに関する詳細な日時、場所、課題内容は、学科オリエンテーションにて発表。

科目名称	大学入門セミナー (P)		授業コード	10202571	
担当教員	藤山 哲朗	曾和 具之、安森 弘昌、向井 昌幸、見明 暢、田頭 章徳、蛭田 直、相澤 孝司、佐野 浩三、相良 二朗			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	全体プログラム：遠隔 学科プログラム：対面にて行うが、感染症対策上必要となった場合は遠隔にて行う。				
遠隔の場合の主なツール	Microsoft Office365 (Teams)				
履修制限等	21P生および編転入生限定				
授業の目的と到達目標 (学習成果)	①大学や大学生生活に適応し、不安を解消する。 ②大学に必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、社会的な知識・スキルを獲得する。 ③多様な活動を通じ各々の学習目標と到達目標を明らかにする。				
授業の概要 (内容)	この授業は、全学科共通プログラム (前述到達目標①②/[A]) 及び学科プログラム (前述到達目標③/[B]) の2つから成り立っている。 [A]高校から大学へ、「生徒」から「学生」へと円滑に移行し、また豊かな学生生活を送ることができるように支援する、講義を中心とした授業の実施。 [B]入学以降の四年間でプロダクト・インテリアデザインをどの様に学んでいくか、またこの学科が備える様々な専門性のいずれに、どの様に着目し自身の専門性を高めていくかを、入学直後に意識付けすることを目的とした演習。学生と教員が同じ目線に立って論じ合い、並行して上級生を加えたグループワークに取り組み、調査・アイデア展開・プレゼンテーションなど様々な活動体験を通じて考察する。また、学外で宿泊しての全員活動やグループ活動に取り組む。				
授業計画	1：「芸工大」講座、大学で学ぶとは① (学生生活の心得) 2：大学で学ぶとは② (学習の技術) 3：大学で学ぶとは③ (安全、健康管理) 4～10：学科プログラム (集中授業) 11：大学で学ぶとは④ (コミュニケーションの技術) 12：文献の探し方 13：知的財産権入門 14：情報リテラシー 15：キャリアデザイン  <学科プログラム> ・オリエンテーション ・自己紹介・デザイン概要基礎 ・グループワーク・事前調査レポート ・デザインサーベイ ・全体プレゼンテーション ・提案レポート				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	[A]「大学生とは?」「将来の夢は…」等、現在の自分の考えをまとめておくこと [B]基礎ゼミ単位で、与えられた課題についての調査、アイデア展開などグループワークに取り組むこと。				
評価方法	[A]、[B]各50%で評価する。 [A]毎回の授業で提出するコメントシートによる評価。[B]調査レポート (30%)、プレゼンテーション (30%)、提案レポート (40%)				
課題・試験に対するフィードバックの方法	[B]プレゼンテーション時に、教員が講評を行う。レポートについては、教員が回覧しコメントを加えてフィードバックする。				
使用テキスト					
参考テキスト・URL	[A]都度、プリントを配布。 [B] <a href="http://product.kobe-du.ac.jp/">http://product.kobe-du.ac.jp/</a> <a href="http://www.arima-toys.jp/">http://www.arima-toys.jp/</a> <a href="https://www.japandesign.ne.jp/">https://www.japandesign.ne.jp/</a> (JDN) <a href="https://www.monodukuri.com/">https://www.monodukuri.com/</a>				
各自準備物					
実習費	[A]なし[B]必要な材料は支給する。				
その他	学科プログラムに関する詳細な日時、場所、課題内容は、学科オリエンテーションにて発表。				

科目名称	大学入門セミナー (V)		授業コード	10302571	
担当教員	藤山 哲朗	かわい ひろゆき、榮元 正博、荒木 優子、寺門 孝之、赤崎 正一、黄 國賓、久本直子、廣中 薫、高 台泳、萩原 こまき、秋山 伸			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	全体プログラム：対面 学科プログラム：遠隔				
遠隔の場合の主なツール					
履修制限等	20V生および編転入生限定				
授業の目的と到達目標 (学習成果)	①大学や大学生生活に適応し、不安を解消する。 ②大学で必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、社会的な知識・スキルを獲得する。 ③学生同士の交流を深めるとともに、ビジュアルデザインについてグループで考えることができる。				
授業の概要 (内容)	この授業は、全学科共通プログラム (前述到達目標①②/[A]) 及び学科プログラム (前述到達目標③/[B]) の2つから成り立っている。 [A]高校から大学へ、「生徒」から「学生」へと円滑に移行し、また豊かな学生生活を送ることができるように支援する、講義を中心とした授業の実施。 [B]1年次生を対象に、学外でビジュアルデザインについて考え、さらにグループによる活動を通じて教員および学生どうしの相互交流をはかる。				
授業計画	1：「芸工大」講座、大学で学ぶとは① (学生生活の心得) 2：大学で学ぶとは② (学習の技術) 3：大学で学ぶとは③ (安全、健康管理) 4～10：学科プログラム (集中授業) 11：大学で学ぶとは④ (コミュニケーションの技術) 12：文献の探し方 13：知的財産権入門 14：情報リテラシー 15：キャリアデザイン  <学科プログラム> (学外演習2日を含む8コマの集中授業で実施) ・オリエンテーション ・グループによる企画・計画 ・発表会 ・レポート作成、提出				
実務経験のある教員	大学教育に長年携わる教員、および学科領域における豊富な実務経験を有する専任教員により具体的で実践的な指導を行なう。				
授業時間外学習	[A]「大学生とは?」「将来の夢は…」等、現在の自分の考えをまとめておくこと [B]授業内で随時指示する。				
評価方法	[A]、[B]各50%で評価する。 [A]毎回の授業で提出するコメントシートによる評価。[B]学外での研修への参加、レポート、グループでの発表での役割などを総合的に評価する。事前のグループ作業、および研修参加は必須。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	課題については、講評形式でフィードバックを行なう。				
使用テキスト	特に無し。必要な資料はレジュメとして配付する。				
参考テキスト・URL	[A]都度、プリントを配布。[B]必要がある場合は適宜、担当教員より指示する。				
各自準備物	必要に応じ、指示する。				
実習費	必要がある場合には、事前に通知する。				
その他	学科プログラムに関する詳細な日時、場所、課題内容は、学科オリエンテーションにて発表。				

科目名称	大学入門セミナー（Ⅰ）		授業コード	10402571	
担当教員	藤山 哲朗	武田 峻彦、石井 岳龍、金子 照之、吉本 拓二、本橋 秀之、中安 翌、金箱 淳一			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面と遠隔（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	20 I 生および編転入生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	①大学や大学生生活に適応し、不安を解消する。 ②大学で必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、社会的な知識・スキルを獲得する。 ③大学生としての自覚を持ち、学生同士の交流を深め、4年間の学業のための友人関係を構築することができる。
授業の概要（内容）	この授業は、全学科共通プログラム（前述到達目標①②/[A]）及び学科プログラム（前述到達目標③/[B]）の2つから成り立っている。 [A]高校から大学へ、「生徒」から「学生」へと円滑に移行し、また豊かな学生生活を送ることができるように支援する、講義を中心とした授業の実施。 [B]大学生活への入門の役割を果たす。様々な専門性を持つ映像表現学科教員と新入生がお互いにコミュニケーションを図り、来るべき4年間の学生生活に関する指針を発見するプログラムである。新入生諸君が円滑に大学生活に適応し、有意義な学生生活を送るためのきっかけとなることを目的としている。
授業計画	1：「芸工大」講座、大学で学ぶとは①（学生生活の心得） 2：大学で学ぶとは②（学習の技術） 3：大学で学ぶとは③（安全、健康管理） 4～10：学科プログラム（集中授業） 11：大学で学ぶとは④（コミュニケーションの技術） 12：文献の探し方 13：知的財産権入門 14：情報リテラシー 15：キャリアデザイン  <学科プログラム> （事前学修1コマ、学外演習1日の集中授業で実施） ・オリエンテーション ・グループ別の課外活動 ・レポートの作成と提出
実務経験のある教員	
授業時間外学習	[A]「大学生とは?」「将来の夢は…」等、現在の自分の考えをまとめておくこと [B]『KUDUCAMPUSGUIDE』・『教員プロフィール』を読んでおくこと
評価方法	[A]、[B]各50%で評価する。 [A]毎回の授業で提出するコメントシートによる評価。[B]レポートにより総合評価する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	
使用テキスト	[A]都度、プリントを配布。[B]各コースからの課題テキスト
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	学科プログラムに関する詳細な日時、場所、課題内容は、学科オリエンテーションにて発表。

科目名称	大学入門セミナー (M)		授業コード	10502571	
担当教員	藤山 哲朗	しりあがり 寿、山本 忠宏、泉 政文、川中 利満、多田 由美、菅野 博之、夢野 れい、工藤 稜			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	全体プログラム：遠隔 学科プログラム：対面で行う。ただし、Teams でもクラス管理を行う。				
遠隔の場合の主なツール	Teams を使用する。				
履修制限等	21M生および編転入生限定				
授業の目的と到達目標 (学習成果)	①大学や大学生生活に適応し、不安を解消するために、共通の土俵を作る。 ②大学に必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、社会的な知識・スキルを獲得する。 ③同じ目標を持った同級生や教員と、学外実習 (特に神戸・兵庫で突出した催し等) で体験したコンテンツを基に議論することで、4年間の学業のための学びの精神を得ることを目標とする。				
授業の概要 (内容)	授業は、全学科共通プログラム (前述到達目標①②/[A]) 及び学科プログラム (前述到達目標③/[B]) の2つから成り立っている。 [A]高校から大学へ、「生徒」から「学生」へと円滑に移行し、また豊かな学生生活を送ることができるように支援する、講義を中心とした授業の実施。 [B]大学生生活での入門授業の役割を果たす。まんが表現学科の教員と新入生が学外実習を基に互いにコミュニケーションを図り、来るべき4年間の学生生活に関する指針を発見するプログラムである。 具体的にはプロの歌劇等を鑑賞して、鑑賞者が全員参加のイメージボード (見開き2ページ) を作成する。作成し、冊子化に際して2年生もアシスタントとして参加し学年間の交流を図る。 #リテラシー #取材 #イラスト				
授業計画	1:「芸工大」講座、大学で学ぶとは① (学生生活の心得) 2: 大学で学ぶとは② (学習の技術) 3: 大学で学ぶとは③ (安全、健康管理) 4: 歌劇 (宝塚) 鑑賞のための、予備知識として資料収集 5: 歌劇のオリジナルとなった作品の鑑賞、及び、批評 6: 歌劇鑑賞 7: 鑑賞した歌劇からのキャラクター抽出 8: 鑑賞した歌劇よりまんが (イメージボード) の構想 9: まんが (イメージボード) の下書き 10: まんが (イメージボード) の清書 11: 大学で学ぶとは④ (コミュニケーションの技術) 12: 文献の探し方 13: 知的財産権入門 14: 情報リテラシー 15: キャリアデザイン				
実務経験のある教員	しりあがり寿: まんが家、アーティスト。長年の実務経験から企画主導・芸術的視点から指導を行う。 川中利満: 編集者。長年の実務経験を元に、プロ作家になるためのノウハウを主として指導を行う。 菅野博之: まんが家。長年の実務経験から、演出力を中心に総合的なまんが家としてのスキルアップ指導を行う。 多田由美: まんが家、イラストレーター。長年の実務経験を元に、画力・カラーイラストの指導を中心に行う。 夢野れい: アニメ背景美術デザイナー、まんが家。長年の実務経験からまんが・イラスト双方に渡る総合的な指導を行う。 工藤稜: イラストレーター。長年の実務経験からモノクロイラスト、カラーイラストの指導を行う。				
授業時間外学習	[A]「大学生とは?」「将来の夢は…」等、現在の自分の考えをまとめておくこと。 [B]宝塚歌劇に関する歴史等を調べる。宝塚歌劇の Web ページを閲覧すること。歌劇演目の原作を調べておくこと。				
評価方法	[A]、[B]各50%で評価する。 [A]毎回の授業で提出するコメントシートによる評価。[B]学外実習への参加。提出作品を重視する。各30%、70%				
課題・試験に対するフィードバックの方法	[B]最終提出課題 (イメージボード) は冊子として印刷して、参加者全員が他の制作者の作品を見ることが出来るようになる。				
使用テキスト	[A]都度、プリントを配布。[B]劇場発行の公式パンフレット。				
参考テキスト・URL	宝塚歌劇公式 Web ページ { <a href="https://kageki.hankyu.co.jp/">https://kageki.hankyu.co.jp/</a> }				
各自準備物					
実習費	[A]なし[B]学外での実習となるため、移動のための交通費が必要。				
その他	学科プログラムに関する詳細な日時、場所、課題内容は、学科オリエンテーションにて発表。				

科目名称	大学入門セミナー (F)		授業コード	10602571	
担当教員	藤山 哲朗	瀬能 徹、野口 正孝、笹崎 綾野、金沢 香恵、平塚 聖子、徂徠 友香子、見寺 貞子			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	全体プログラム：遠隔 学科プログラム：対面
遠隔の場合の主なツール	Teams
履修制限等	20F生および編転入生限定
授業の目的と到達目標 (学習成果)	①大学や大学生活に適応し、不安を解消する。 ②大学で必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、社会的な知識・スキルを獲得する。 ③本演習では、グループワークにより一つのテーマを考え、計画・実行することを目標とする。
授業の概要 (内容)	この授業は、全学科共通プログラム (前述到達目標①②/[A]) 及び学科プログラム (前述到達目標③/[B]) の2つから成り立っている。 [A]高校から大学へ、「生徒」から「学生」へと円滑に移行し、また豊かな学生生活を送ることができるように支援する、講義を中心とした授業の実施。 [B]環境を意識する中で、ファッションデザインのためのグループワークによるプレゼンテーションを計画・実行し、デザインのアプローチについて教員とともに考える。
授業計画	1：「芸工大」講座、大学で学ぶとは① (学生生活の心得) 2：大学で学ぶとは② (学習の技術) 3：大学で学ぶとは③ (安全、健康管理) 4～10：学科プログラム (集中授業) 11：大学で学ぶとは④ (コミュニケーションの技術) 12：文献の探し方 13：知的財産権入門 14：情報リテラシー 15：キャリアデザイン  <学科プログラム> (各水曜日1時限の集中授業で実施) ・オリエンテーション ・グループワーク (ディスカッション・制作) ・モノづくり・絵画表現・映像表現他の手法 ・プレゼンテーション ・発表/まとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	[A]「大学生とは?」「将来の夢は…」等、現在の自分の考えをまとめておくこと [B]授業内で説明する。
評価方法	[A]、[B]各50%で評価する。 [A]毎回の授業で提出するコメントシートによる評価。[B]学外活動の計画書・発表・レポート、および授業態度により評価する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	
使用テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	各自制作にかかる製作費および情報収集時の交通費は自費とする。
その他	学科プログラムに関する詳細な日時、場所、課題内容は、学科オリエンテーションにて発表。

科目名称	大学入門セミナー (A)		授業コード	10702571	
担当教員	藤山 哲朗	友定 聖雄、田口 史樹、さくまはな、中山 玲佳、三島 一能、森岡 希世子、戸矢崎 満雄、笹谷 晃生、谷口 文保			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	全体プログラム：遠隔 学科プログラム：対面				
遠隔の場合の主なツール					
履修制限等	20A生および編転入生限定				
授業の目的と到達目標 (学習成果)	①大学や大学生生活に適応し、不安を解消する。 ②大学に必要な最低限の学習スキル、著作権や法律など、社会的な知識・スキルを獲得する。 ③学科の教員と新入生がお互いにコミュニケーションを図り、大学でなすべきことや目標について仲間と一緒に考えることができる。				
授業の概要 (内容)	この授業は、全学科共通プログラム (前述到達目標①②/[A]) 及び学科プログラム (前述到達目標③/[B]) の2つから成り立っている。 [A]高校から大学へ、「生徒」から「学生」へと円滑に移行し、また豊かな学生生活を送ることができるように支援する、講義を中心とした授業の実施。 [B]大学生生活を有意義に送るために、大学生活4年間の指針を見つけるプログラムで、「大学のこと」「自分のこと」「友人のこと」「教員のこと」「カリキュラムのこと」「学科の施設のこと」「将来計画のこと」など、自由に意見を交わしながら理解するセミナー。				
授業計画	1：「芸工大」講座、大学で学ぶとは① (学生生活の心得) 2：大学で学ぶとは② (学習の技術) 3：大学で学ぶとは③ (安全、健康管理) 4～10：学科プログラム (集中授業) 11：大学で学ぶとは④ (コミュニケーションの技術) 12：文献の探し方 13：知的財産権入門 14：情報リテラシー 15：キャリアデザイン  <学科プログラム> (事前学修3回、学外演習1日、事後学修1回集中授業で実施) ・セミナー全般の説明、カリキュラム説明、4年間の履修計画表作成 (谷口、さくま、三島) ・4年間の履修計画提出、個人面談 (谷口、さくま、三島) ・4年間の履修計画相談・個人面談 (谷口、さくま、三島) ・セミナー直前詳細確認、自己紹介カードの作成 (谷口、さくま、三島) ・セミナー (学外スケッチ日帰り旅行) (全員) ・まとめ、個人面談 (谷口、さくま、三島)				
実務経験のある教員	担当教員全員が、美術または工芸作家として作品の制作・発表などの他に、様々な社会活動を行っている。				
授業時間外学習	[A]「大学生とは?」「将来の夢は…」等、現在の自分の考えをまとめておくこと [B]『KUCAMPUSGUIDE』の「履修について」、「アート・クラフト学科カリキュラムについて」の部分に目を通しておくこと				
評価方法	[A]、[B]各50%で評価する。 [A]毎回の授業で提出するコメントシートによる評価。[B]セミナーでの受講、学習態度等の総合評価				
課題・試験に対するフィードバックの方法					
使用テキスト					
参考テキスト・URL	[A]都度、プリントを配布。[B]授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する				
各自準備物					
実習費					
その他	学科プログラムに関する詳細な日時、場所、課題内容は、学科オリエンテーションにて発表。				

科目名称	日本語表現 I A①		授業コード	10106012	
担当教員	角田 宏子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修、学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる</li> <li>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける</li> <li>・文章でものごとを客観的に説明できる</li> <li>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる</li> <li>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる</li> </ul>				
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。				
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成 2：紹介文②文章作成 3：ことばのドリル①文体 4：ことばのドリル②整った表現 5：ことばのドリル③書式 6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ 7：意見文①文章設計図作成 8：意見文②文章作成 9：ことばのドリル⑤まとめ 10：before/after の文章①文章設計図作成 11：before/after の文章②文章作成 12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成 13：対立項と時間軸のある文章②文章作成 14：敬語のドリル①基本的ルール 15：敬語のドリル②練習				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。				
評価方法	小レポート 30%、課題 70%。欠席6回以上でE評価になる。毎時間の小レポートの提出をもって出席とする。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。				
使用テキスト	『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、板東実子、国書刊行会、2021 ※電子書籍の購入も可				
参考テキスト・URL					
各自準備物	電子辞書等				
実習費					
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当クラスでは、初回授業に関する連絡を、第1回授業日の前日に、大学アドレスメール（Outlook）で行うので、受信出来るようにしておくこと。</li> <li>・2021年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。</li> </ul>				

科目名称	日本語表現 I A②	授業コード	10206012
担当教員	中川 祐香		
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2021
開講学期		開講学期	前期
関連資格	博学		

対面・遠隔の別	遠隔授業
遠隔の場合の主なツール	ポータル、One Drive、Forms
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる</li> <li>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける</li> <li>・文章でものごとを客観的に説明できる</li> <li>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる</li> <li>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる</li> </ul>
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成 2：紹介文②文章作成 3：ことばのドリル①文体 4：ことばのドリル②整った表現 5：ことばのドリル③書式 6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ 7：意見文①文章設計図作成 8：意見文②文章作成 9：ことばのドリル⑤まとめ 10：before/after の文章①文章設計図作成 11：before/after の文章②文章作成 12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成 13：対立項と時間軸のある文章②文章作成 14：敬語のドリル①基本的ルール 15：敬語のドリル②練習
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。
評価方法	課題・提出物 60%、小テスト・復習テスト 40%。5 回以上の欠席は E 評価になる。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	板東実子(2021)『大学生のための文章表現 練習帳 第二版』国書刊行会 ※電子書籍の購入も可
参考テキスト・URL	
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	2021 年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。

科目名称	日本語表現 I A③④⑤		授業コード	12306012	
担当教員	新 聖子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修、学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔（リアルタイム・オンデマンド混合）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルおよび Teams
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる</li> <li>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける</li> <li>・文章でものごとを客観的に説明できる</li> <li>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる</li> <li>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる</li> </ul>
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章作成 2：ことばのドリル①敬体と常体 3：ことばのドリル②整った表現(1)副詞・縮約 4：ことばのドリル③整った表現(2)文をつなぐ表現 5：ことばのドリル④文頭と文末の呼応表現 6：ことばのドリル⑤敬語(1)基本練習 7：ことばのドリル⑥敬語(2)発展練習 8：ことばのドリル⑦復習、書式 9：ことばのドリルまとめ、紹介文②復習 10：賛成・反対の意見文①表現練習 11：賛成・反対の意見文②文章作成 12：before/after の文章①表現練習 13：before/after の文章②文章作成 14：自主課題①表現練習 15：自主課題②文章作成
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。
評価方法	毎回の課題提出の内容を100%で評価する。また6回以上の未提出をE評価とする。課題の内容は初回の授業時に説明する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	『大学生のための文章表現練習帳 第2版』板東実子、国書刊行会、2021 ※電子書籍の購入も可
参考テキスト・URL	
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	2021年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。 留学生対象のクラスである。

科目名称	日本語表現 I B①③⑤⑦⑩⑬⑭⑯			授業コード	10306012
担当教員	角田 宏子				
単位数	1/2	授業形態	講義	科目分類	必修、学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる</li> <li>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける</li> <li>・文章でものごとを客観的に説明できる</li> <li>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる</li> <li>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる</li> </ul>
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成 2：紹介文②文章作成 3：ことばのドリル①文体 4：ことばのドリル②整った表現 5：ことばのドリル③書式 6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ 7：意見文①文章設計図作成 8：意見文②文章作成 9：ことばのドリル⑤まとめ 10：before/after の文章①文章設計図作成 11：before/after の文章②文章作成 12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成 13：対立項と時間軸のある文章②文章作成 14：敬語のドリル①基本的ルール 15：敬語のドリル②練習
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。
評価方法	小レポート 30%、課題 70%。欠席6回以上でE評価になる。毎時間の小レポートの提出をもって出席とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	『大学生のための文章表現 練習帳（第2版）』、板東実子、国書刊行会、2021 ※電子書籍の購入も可
参考テキスト・URL	
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当クラスでは、初回授業に関する連絡を、第1回授業日の前日に、大学アドレスメール（Outlook）で行うので、受信出来るようにしておくこと。</li> <li>・2021年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。</li> </ul>

科目名称	日本語表現 I B②④⑥		授業コード	10406012	
担当教員	新 聖子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修、学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる</li> <li>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける</li> <li>・文章でものごとを客観的に説明できる</li> <li>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる</li> <li>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる</li> </ul>
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成 2：紹介文②文章作成 3：ことばのドリル①文体 4：ことばのドリル②整った表現 5：ことばのドリル③書式 6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ 7：意見文①文章設計図作成 8：意見文②文章作成 9：ことばのドリル⑤まとめ 10：before/after の文章①文章設計図作成 11：before/after の文章②文章作成 12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成 13：対立項と時間軸のある文章②文章作成 14：敬語のドリル①基本的ルール 15：敬語のドリル②練習
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。
評価方法	課題提出 100%、6 回以上の欠席は E 評価になる。なお課題の内容と欠席の扱いについて初回の授業時に説明する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	『大学生のための文章表現練習帳 第2版』板東実子、国書刊行会、2021 ※電子書籍の購入も可
参考テキスト・URL	
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	2021 年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。

科目名称	日本語表現 I B⑧⑩	授業コード	11006012		
担当教員	中川 祐香				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修、学修基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格	博学				

対面・遠隔の別	遠隔授業
遠隔の場合の主なツール	ポータル、One Drive、Forms
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>目的：基本的な日本語の文章表現のルールを学び、日本語の文章力を高めることを目的とする。日本語で表現するための基本として日本語の書き言葉の特徴を把握し、論理的に書く技法の初歩を身につける。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き言葉と話し言葉の違いを把握し、適切に使い分けられる</li> <li>・文章を作成する際に、論理的構成に配慮する習慣を身につける</li> <li>・文章でものごとを客観的に説明できる</li> <li>・立場を明確にし、異なる視点を取り入れ自らの意見を述べるができる</li> <li>・待遇表現の基本的ルールを理解し使用できる</li> </ul>
授業の概要（内容）	身近なテーマから少しずつトレーニングや実践の段階を経て、大学の学びに必要な文章表現力をつけ、読む人に伝わりやすい文章を書けるようになることを目指す。この授業は日本語表現Ⅱおよび文章表現法の基礎となるものである。授業の進め方は担当教員から説明する。
授業計画	1：オリエンテーション、紹介文①文章設計図作成 2：紹介文②文章作成 3：ことばのドリル①文体 4：ことばのドリル②整った表現 5：ことばのドリル③書式 6：ことばのドリル④箇条書きから文章へ 7：意見文①文章設計図作成 8：意見文②文章作成 9：ことばのドリル⑤まとめ 10：before/after の文章①文章設計図作成 11：before/after の文章②文章作成 12：対立項と時間軸のある文章①文章設計図作成 13：対立項と時間軸のある文章②文章作成 14：敬語のドリル①基本的ルール 15：敬語のドリル②練習
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後も講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイントなどを整理するなど、復習に励むこと。また、正しい漢字が書けるように日頃から意識しておくこと。
評価方法	課題・提出物 60%、小テスト・復習テスト 40%。5 回以上の欠席は E 評価になる。
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	板東実子(2021)『大学生のための文章表現 練習帳 第二版』国書刊行会 ※電子書籍の購入も可
参考テキスト・URL	
各自準備物	電子辞書等
実習費	
その他	2021 年度生は、能力別クラス運営をしており、進捗進度等は異なるため、上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。